

香川の医療最前線

179



体のさまざまな部位で臓器や組織が飛び出すヘルニア。中でも、外科で扱う鼠径ヘルニアは、加齢により筋膜が弱くなることが原因とされ、高齢化の進行に伴い患者数が増加している。近年は技術の進歩で日帰り手術も可能となっており、県内でも数少ない同手術を行うキナシ大林病院の美濃睦水副院長に、手術の方法や特徴などを聞いた。

— 鼠径ヘルニアとは。太もも付け根部分の鼠径部の筋肉や筋膜が弱くなり、血管や精管などが通る鼠径管に腸や脂肪が入り込んで起こる病気。脱腸とも呼ばれる。

— 症状は。立った時や腹圧をかけた時に、鼠径部が膨らむようになる。初期は寝ると引っ込み目立たないが、進行すると膨らみが硬くなり、痛みを伴う。閉塞した腸が壊

死してしまつと、命に関わる危険性もある。

— 原因は。先天的なものが主な要因の一つ。二つ目は、加齢による筋膜の衰え。患者は中

鼠径ヘルニア

日帰り手術も可能に

局所麻酔と電気メスで

— 原因は。先天的なものが主な要因の一つ。二つ目は、加齢による筋膜の衰え。患者は中

— 手術は。手術は1時間前後と短時間で終わる。後は、なるべく腹圧をかけないよう、安静にすることが大事。メッシュが動いたり、出血する可能性があるため、1、2

— 手術は。手術は1時間前後と短時間で終わる。後は、なるべく腹圧をかけないよう、安静にすることが大事。メッシュが動いたり、出血する可能性があるため、1、2

— 手術は。手術は1時間前後と短時間で終わる。後は、なるべく腹圧をかけないよう、安静にすることが大事。メッシュが動いたり、出血する可能性があるため、1、2

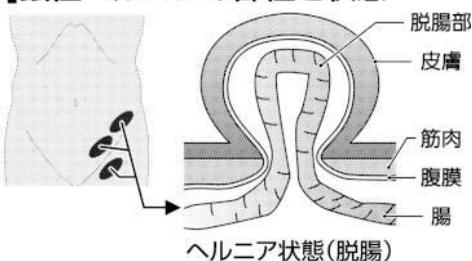
◆みの・むつみ 1985年愛媛大医学部卒。香川医大(現香川大付属病院、八重垣病院(兵庫県)を経て、1995年からキナシ大林病院勤務。2000年から外科部長、07年から現職。日本外科学会専門医、日本消化器外科学会認定医。三木町出身。56歳。

— 術後の経過は。手術は1時間前後と短時間で終わる。後は、なるべく腹圧をかけないよう、安静にすることが大事。メッシュが動いたり、出血する可能性があるため、1、2

— 術後の経過は。手術は1時間前後と短時間で終わる。後は、なるべく腹圧をかけないよう、安静にすることが大事。メッシュが動いたり、出血する可能性があるため、1、2

— 術後の経過は。手術は1時間前後と短時間で終わる。後は、なるべく腹圧をかけないよう、安静にすることが大事。メッシュが動いたり、出血する可能性があるため、1、2

鼠径ヘルニアの部位と状態



■ キナシ大林病院・外科

ヘルニアだけでなく、腹膜透析用カテーテル挿入などの腹部小手術も局所麻酔で行う。診察、治療は香川大医学部付属病院の各科と連携し、呼吸器から循環器まで広範囲に対応する。

所在地：高松市鬼無町藤井435-1
電話：087(881)3631
<http://www.obayashihp.or.jp/>

週間は力仕事を避けた方がいい。入院は1泊2日を基本としているが、直後から歩行も可能で、希望があれば日帰り手術もできる。

— なぜ日帰りが可能か。当院では、麻酔と手術方法に特徴がある。またマイナーだが、血管収縮剤を混ぜた膨潤麻酔を使用し、電気メスを使うため、出血量をごく微量に抑えられる。また、硬い組織にメッシュを縫い付けるので動いてもずれの可能性が低い。患者の負担が少ない手術を心掛けています。

— 日常生活の注意点は。左右を見比べて腫れていたり、太ももの付け根の部分に痛みがあれば疑ってみてほしい。便秘や咳をよくする人も注意が必要だ。我慢せず、気になる点があれば診察を受けてほしい。